

歴史と文化練習問題集

桜井教官の歴史と文化について私自身の試験勉強も兼ね、予想問題というのは言いすぎですが出るならこんな感じの問題ではないかというのを自作し、それなりの解答を用意したものです。

過去問が2008年しかなく、そのため一部範囲が過去問では対応できてないためこのプリント作成に至りました。すべての範囲に対応しているわけではありませんが、皆様の勉強の一助となれば幸いです。（それにしても、当たり授業ですよ）

なお、守護家の内紛についてはマニアック問題化しそうなので取り上げませんでした。守護家の家督争いが応仁・文明の乱につながったと認識していれば十分でしょう。家系図は試験で掲載されるようですし。

(嘉吉の乱)

問

嘉吉の乱に至った原因と、その後の展開について赤松家の分国に触れつつ説明せよ

答

乱の首謀者であった赤松満祐は、所領の問題で足利義持・義教に対してかねてから不満を持っていた。その中で、義教が満祐の弟である義雅の所領を召し上げ満祐らに配分されたがその配分の仕方に納得がいかず、満祐が子の教康と共謀して義教を暗殺し嘉吉の乱となった。その後、満祐ら当事者が自刃・討死したことによって乱は鎮圧し、赤松家は一時断絶した。乱後、赤松家の旧分国は山名一族にわたり、山名持豊の躍進につながる一方、三管四職の均衡が崩れ応仁・文明の乱へつながった。また、赤松家は政則の代に加賀半国を領有する形で再興したが、旧分国を巡り持豊と政則の対立を招き、これも応仁の乱の原因となった。

コメント

義雅とか教康は余裕があったら書く名前だと思います。満祐・義教・持豊・政則は必ず書く必要があるのではないかと。加賀半国も余裕があれば。

(家)

問1

日本の家が「企業体としての家」と言えるのはなぜか。成立の過程も含めその特徴をふまえて答えよ

問2

日本の家、中国の宗族、朝鮮の門中を血縁・相続という観点から比較せよ

答

問1

中世途中に相続方法が分割相続から嫡子単独相続へ変化し、財産が家へ伝わるようになっていった。これにより、家産の概念が成立し血縁よりも家名を重視するようになり、養子による相続も普通になった。ゆえに、1つの企業をつぶさないように、社名はそのままに経営者や経営体系を何度も変えながら維持していくという企業の方針と似た形で家の存続が図られるようになったから。

問2

日本の家は家名を残すことを重視し、血縁の関係ない養子に相続させることもある。また、相続方法は嫡子単独相続である。一方で中国の宗族は父系の出自を重視し、異姓の養子をとらない。さらに族譜を重視し、広い人脈を築く。相続方法は男子均分相続であり、同居同財の大家族を形成している。朝鮮の門中は血縁・族譜の重視について中国と共通であるが、一子残留の直系家族を形成し、嫡男優遇の男子分割相続をとる。

コメント

出てもおかしくない範囲です。特に日本の家の考え方が応仁の乱にもつながるわけですし・・・

(惣村)

問

自治組織としての惣村について、自治体系・財政等について述べよ

答

惣村は寄合において村人たちの合議によって運営され、独自の厳しい村法を作ったり、自検断という村独自の警察権を発動したりして自治を行った。また、年貢の村請を行い、年貢を村で集め一括して荘園領主に納入した。そして、村役という独自の重い税制を敷き、田畑に対する段銭や家役を徴収する一方で、惣借という村全体で借金し、財源とする仕組みもあった。さらに、農業用の刈敷の草用に入会地を共同で管理した。

コメント

なんかもう、全文重要な気がします。日本史で受験した方は何回かやったことある問題だとお気づきのことでしょう。

(関東の動乱)

問 1

動乱までの関東が強大な勢力であった理由を述べよ

問 2

関東公方が滅亡し、再興後分裂へ向かう過程を述べよ

答

問 1

関東府は最初から東国 10 か国を領有し、明徳の乱後には東国 12 か国にまで拡大するなど、広い領地を持っていた。また、関東公方はそもそも將軍の権限である恩賞給与を始め裁判や徴税についての権限を持ち、さらに関東府が幕府と同様な組織体系だった。

問 2

永享の乱で幕府に抵抗する関東公方の足利持氏が敗死し、その後結城氏朝が持氏の遺児を擁立して幕府に抵抗する結城合戦が起こったが、敗北し鎌倉公方は滅亡した。しかし、持氏の遺児である成氏が鎌倉入りをし、一部領地を失い権限が制約される形で関東公方を再興した。関東公方再興の一方で成氏は、幕府に近い関東管領の上杉憲忠との対立を深め、江の島合戦で武力衝突を引き起こし、成氏が憲忠を殺害したことによって享徳の乱となり、関東は大乱となった。その中で、幕府は上杉房頭を成氏追討の総大将に命じ、鎌倉を焼き払った。その結果成氏は下総古河へ逃れる一方、足利義政は兄の政友を関東公方に任命したが、伊豆堀越で足止めとなり、関東公方が古河公方と堀越公方に分裂した。

コメント

問 2 に出てきた人名は、房頭以外は重要だと思います。応仁の乱で成氏への攻撃が一時ストップしたことについては触れませんでした。それにしても長くなっちゃったなあ^^;

(義政の専制化と伊勢貞親)

問 1

足利義政が専制化する背景を述べよ

問 2

伊勢貞親が幕府で台頭できた理由を述べよ

答

問 1

享徳の乱によって足利成氏という東国に本格的な脅威が出現したことで、守護たちが将軍の下に結束し、専制を振るう下地ができた。また、赤松旧分国を吸収し力をつけていた山名持豊を但馬へ蟄居させたこともあり、義政にとって動きやすい体制ができていた。

問 2

伊勢家は代々足利家の家宰を務め、さらに貞親が義政の養父となったことで武官への影響力を持った。また、伊勢家は政所執事も世襲しており、幕府財政や動産訴訟に直接かかわるなど文官への影響力も持っていた。こうして文・武両方への影響力を持った貞親は幕府内で重要な地位にあった。

コメント

特にありません。